

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 23 日現在

機関番号：64401

研究種目：挑戦的研究（開拓）

研究期間：2017～2023

課題番号：17H06191・20K20280

研究課題名（和文）個別文化の標準化問題に関する文化人類学と会計学の学際的共同研究

研究課題名（英文）Interdisciplinary research on standardization of individual cultures between anthropology and accounting

研究代表者

出口 正之（Deguchi, Masayuki）

国立民族学博物館・その他部局等・名誉教授

研究者番号：90272799

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 19,500,000円

研究成果の概要（和文）：論文34本、学会等の発表25（内7は国際学会）また書籍として、『会計学と人類学のトランスフォーマティブ研究』（出口正之・藤井秀樹編）は出版できた。他方で、新しい分野であり、発表できる学会がほとんどなく、査読論文の数は極端に少なく、国際学会での発表はあるものの英文ジャーナル掲載論文はゼロにとどまっている。今後この成果を査読論文、英文ジャーナル、書籍出版に結び付けたい。

研究内容として重要な点は「ビジネスセントリズム」という重要概念を創出できたことである。とりわけ、企業偏重の日本社会にあつては、企業の文化や規範を普遍的なものとして押し付ける傾向に、一定の学術的な光を与えることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

会計学と人類学のトランスフォーマティブ研究に挑戦した。会計学者は会計を「言語」と表現している。非営利会計の統一をクリティカルな観点から眺めれば、各地で異なる言語が併存しているときに、統一言語を作る言語政策が推し進められている状況と捉えることができる。さらに、その議論の方法を見れば、「利益計算のための損益主義会計を中心に発展してきた企業会計」を、多くの人々が使用しているからという理由で、「利益」の概念のない非営利会計を導入しようとするマジョリティの論理が指摘できた。非営利の世界を営利の世界で考える「ビジネスセントリズム」という概念を創出することで、非営利の会計をめぐる議論を整理することに成功した。

研究成果の概要（英文）：We have published 34 papers, 25 presentations at academic conferences (7 of which were at international conferences), and a book entitled "Transformative Research in Accounting and Anthropology" (edited by Masayuki Deguchi and Hideki Fujii). On the other hand, because this is a new field, there are very few academic societies, the number of peer-reviewed papers is extremely few, and although there have been presentations at international conferences, there have been no papers published in International English journals. In the future, we would like to link these results to the publication of peer-reviewed papers, English journals, and books.

An important aspect of our research outcome is that we were able to create the important concept of "business centrism." In particular, in Japanese society, which is heavily weighted towards corporations, we were able to shed a certain amount of academic light on the tendency to impose corporate culture and norms as universal.

研究分野：人類学

キーワード：人類学 会計学 トランスフォーマティブ研究 ビジネスセントリズム 非営利会計 領域設定総合化法 IFR4NPO 標準化

### 1. 研究開始当初の背景

研究代表者は非営利セクターの研究を一貫して行ってきた。研究の傍ら、政府で始まった制度改革にも深く関与し、非営利法人課税を議論する政府税制調査会をはじめ、公益法人制度改革に伴う内閣府公益認定等委員会の第1期及び第2期の委員を務めた。その間、第2期(2010-2013)は、旧公益法人約2万5千の法人の移行に直接関与するため、国会同意人事で常勤職となり、一旦、教授の職を辞した。

内閣府公益認定等委員会という実社会の場で、会計的な議論と文化的議論が並存していながら、学術がそれに全く対応していないという場面に何度も直面した。会計学者は文化的重要性を説きながら、文化の直接の研究者との対話を避けているようにも見え、文化人類学者は会計的な表現を極力嫌っているようにも見えた。しかし会計現象は人間文化に深く関連し、かつ、文化人類学者が研究してきたグローバル化の渦中にあり、両学問関係者が一体として議論すべきと考えた。

そこで、研究代表者は文化人類学の研究拠点である国立民族学博物館教授に復帰後、文化人類学と会計学の共同研究の可能性を探り、科研費挑戦的萌芽研究(研究代表者出口正之「法・会計・文化融合型の公共政策国際比較研究」2015-16)を実施した。その結果、より個別化の傾向が強い非営利法人会計(日本では公益法人会計基準、学校法人会計基準、社会福祉法人会計基準、NPO法人会計基準等が併存する世界でも稀有な状況)の標準化の議論という領域を設定することで、両学問の学際研究は十分に切り拓け、従来にない新しい展開が可能であることがわかった。

また、現代社会は、世界標準的なモノサシによって評価や監査を行うことが蔓延してきている。この問題に対して会計学者のMichael Powerは「認定の儀礼」(國部克彦・堀口真司の邦訳では「検証の儀式化」という副題をわざわざ入れて『監査社会』を著し、また、それを受けた形で文化人類学者のMarilyn Strathernが『監査文化』を世に問い、「監査」を巡る課題が会計学・文化人類学にとってグローバル化を挟んで共通する大きなテーマであることが明示された。しかし、両学問の壁は大きく、両学問の壁を取り払うことはできていないという社会的背景及び学術的背景があった。

### 2. 研究の目的

そこで、本研究は従来ほとんど交流のなかった会計学と文化人類学とを「非営利法人の複数の会計基準の標準化問題」の研究を足がかりに総合化させ、評価・監査を重視する現代社会での「個別文化の標準化問題」を研究しうる新しい知を創出するトランスフォーマティブ研究を目的としていた。

日本の非営利法人は、「公益法人」というひとつのカテゴリーから、「法人格」をもとに公益法人、学校法人、社会福祉法人、NPO法人などに分岐した。さらに、会計も公益法人会計基準、学校法人会計基準、社会福祉法人会計基準、NPO会計基準と分岐しており、世界的に見ても非常に複雑な制度ができあがっている。そこで、企業会計を中心とした共通枠組みにより非営利会計を標準化しようとする動きが日本公認会計士協会を中心に進行している。

文化人類学は各民族の個別文化がマジョリティの文化に「同化されつつある場」を重要な研究対象として研究してきた。非営利会計の標準化問題はそれと同じ課題が存在し、文化人類学の知の集積が生かせると考えたからである。

本研究に先立って行われた科研費挑戦的萌芽研究の結果、非営利会計の標準化問題は、マイノリティである非営利的価値観とマジョリティである企業的価値観の相克が浮き彫りになっていたため、この分野での両学問の研究が重要であることがわかった。そこで文化人類学者と会計学者がともにこの問題に挑戦し、相互の知見を総合化させ、新しい知を切り開く「トランスフォーマティブ研究」を行うことを目的とした。

### 3. 研究の方法

ある特定の領域を設定し、異なる学問を集合させ、総合化する手法を、本研究では「領域設定総合化法」と呼び、トランスフォーマティブ研究の有力な方法論として提示した。本研究では、「非営利会計の標準化問題」という会計学者が独占的に議論するフィールドと思われる領域で、文化人類学者を巻き込んで研究を開始した。「現金主義から発生主義への進化」を前提とする会計学者と、「進化主義的な見方に懐疑的な」文化人類学者とで、「従来のそれぞれの学問の制約からくる議論」と「学術そのものが持つ知の力としての議論」を意識しながら、「非営利会計の標準化問題」にアプローチした。

さらに、研究範囲を、「企業会計」とIFRS(国際財務報告基準)の問題という現代会計学の最も中心的な課題にも広げた。会計学では「企業の内部の管理のための会計」から「投資家への情報提供を目的とする財務報告会計」へと「進化」していると考えられている。IFRS

の問題とは、企業がボーダーレス化した結果、企業の資産、負債、利益などの財務報告が、ステークホルダーに提示されるときに、各国の会計基準によって異なった数字となることは好ましくないため、国際的に「コンバージェンス」(収斂)しようとする「標準化の圧力」が存在している。実はここにも各国の個別文化と標準化の問題が横たわっていた。

他方で、国際機関から支援を受ける発展途上国の非営利組織の世界では企業会計を介さずに非営利会計を標準化する必要性が生じていたが、ついに、CIPFA (Chartered Institute of Public Finance and Accounting : 勅許公共財務会計協会) と Humanum とが事務局になり、IFR4NPO という国際プロジェクトが誕生し、研究代表者はそのメンバーに選ばれ、直接議論に参加する機会を得ている。IFR4NPO は現在 100 ヶ国以上が係わる一大国際プロジェクトになっており、研究代表者は日本の唯一の関係者である。非営利会計を企業会計に近づけて国際的に標準化しようとする動きを「垂直的標準化」と呼ぶとしたら、この動きは非営利会計のまま標準化しようとする「水平的標準化」を意識したものといえる。本研究はこの第二の標準化も含めて、会計学的思考と文化人類学的思考とによって研究した。

さらに計画では「個別文化と標準化問題」の思考方法を文化人類学、会計学ともに見直し両者を総合化した一般的な思考方法を作り出そうとしていた。その思考方法がより一般的な問題(「IRや評価で翻弄される学術の現場」を含む。)の「個別文化と標準化」の課題解決の方法論としての妥当性も視野に入れていたが、そこまでのことはできていない。

#### 4. 研究成果

論文 34 本、学会等の発表 25 (内 7 は国際学会) また書籍として、『会計学と人類学のトランスフォーマティブ研究』(出口正之・藤井秀樹編) は出版できたことは大きい。他方で、新しい分野であり、発表できる学会がほとんどなく、査読論文の数は極端に少ないし、国際学会での発表はあるものの英文ジャーナル掲載論文はゼロにとどまっている。今後この成果を査読論文、英文ジャーナル、書籍出版に結び付けたい。

研究内容として重要な点は「ビジネスセントリズム」という重要概念を創出できたことである。とりわけ、企業偏重の日本社会にあっては、企業の文化や規範を普遍的なものとして押し付ける傾向にあり、様々な分野でこの概念が使用されることが期待されている。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計34件（うち査読付論文 11件 / うち国際共著 4件 / うちオープンアクセス 10件）

1. 著者名 出口正之	4. 巻 1057号
2. 論文標題 ベネフィットコーポレーション制度と公益・一般法人への影響	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 公益・一般法人	6. 最初と最後の頁 38 43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 出口正之	4. 巻 1057号
2. 論文標題 公益・一般法人の横領事件の実態 報道事例から探る問題点	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 公益・一般法人	6. 最初と最後の頁 18-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 尾上選哉	4. 巻 第92巻第2号
2. 論文標題 米国における宗教団体の課税制度および情報開示－国際比較のための予備的研究として－	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 経済集志	6. 最初と最後の頁 271-278
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 出口正之	4. 巻 23
2. 論文標題 同一説と相違説：非営利会計の本質を考える国内外の議論の視点	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 非営利法人研究会誌	6. 最初と最後の頁 35-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 久保秀雄・出口正之	4. 巻 23
2. 論文標題 公益法人の財務三基準に関するシステム論的理解：認定制度の趣旨と収支相償の解釈	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 非営利法人研究学会誌	6. 最初と最後の頁 23-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 出口正之・山岡義典	4. 巻 0
2. 論文標題 日本の現代フィランソロピー思想の原点	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Youtube	6. 最初と最後の頁 1 - 2:01:34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 尾上選哉	4. 巻 1045
2. 論文標題 公益法人会計基準の大幅改正の論点：正味財産増減計算書から活動計算書へ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 公益・一般法人	6. 最初と最後の頁 28-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 出口正之	4. 巻 1020
2. 論文標題 フランスの『公益の増進の徹底した改革』と日本の『失われた10年』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 公益・一般法人	6. 最初と最後の頁 32-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 尾上選哉	4. 巻 22
2. 論文標題 会計からみる公益法人制度改革の課題と可能	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 非営利法人研究学会誌	6. 最初と最後の頁 15-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 出口正之	4. 巻 22
2. 論文標題 公益法人税制優遇のルビンの壺現象：価値的多様性と手段的多様性への干渉	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 非営利法人研究学会	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 出口正之	4. 巻 1006
2. 論文標題 地方・国・海外から見た公益認定制度	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 公益・一般法人	6. 最初と最後の頁 39-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 尾上選哉	4. 巻 研究報告書
2. 論文標題 宗教法人課税の問題：宗教法人非課税の根拠	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 税務会計研究学会特別委員会	6. 最初と最後の頁 153-170
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 尾上選哉	4. 巻 研究報告書
2. 論文標題 非営利法人税制の複雑化と一般社団法人等課税	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 税務会計研究学会特別委員会	6. 最初と最後の頁 103-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 尾上選哉	4. 巻 13
2. 論文標題 英国チャリティにおけるチャリティ法人制度の検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『研究年報』(大原大学院大学)	6. 最初と最後の頁 69-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 尾上選哉	4. 巻 第55巻第3・4合併号
2. 論文標題 新公益法人制度および新公益法人税制における一般法人の区分問題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『商経論集』(神奈川大学)	6. 最初と最後の頁 59-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今枝千樹・藤井秀樹	4. 巻 22
2. 論文標題 地方創生における地域資源の戦略的活用とその成功要因 広島安芸高田神楽の ケーススタディ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 非営利法人研究学会誌	6. 最初と最後の頁 47-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今枝千樹・藤井秀樹	4. 巻 19
2. 論文標題 地方創生と文化芸術活動を繋ぐ中間支援組織 広島神楽・東濃地 歌舞伎のケーススタディ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地域活性化研究	6. 最初と最後の頁 69-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 竹沢尚一郎	4. 巻 44 (1)
2. 論文標題 アグリビジネスから食の民主主義へ 岐路にある日本とフランスの食と農	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国立民族学博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 129-178
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takezawa Shoichiro	4. 巻 19-03
2. 論文標題 From Agribusiness to Food Democracy: Comparative Study on Agricultural Policy and Organic Farming in France and in Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 FFJ DISCUSSION PAPER (the Fondation France-Japon de l' EHESS)	6. 最初と最後の頁 1-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 出口正之	4. 巻 20
2. 論文標題 「理念の制度」としての財務三基準の有機的連関性の中の収支相償論	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 非営利法人研究学会	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 出口正之, 兪祖成	4. 巻 4
2. 論文標題 日本非営利改革及后示	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 北大政治学評論	6. 最初と最後の頁 102-119.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 竹沢尚一郎	4. 巻 83(2)
2. 論文標題 「人類学を開く 『文化を書く』から「サークル村」へ」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 145-165
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹沢尚一郎	4. 巻 44巻1
2. 論文標題 アグリビジネスから食の民主主義へ 岐路にある日本とフランスの食と農	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国立民族学博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 竹沢尚一郎	4. 巻 2019年6月号
2. 論文標題 アグリビジネスから食の民主主義へ アグリビジネスに対抗するフランスとEUの農業政策とわが国の現状	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中央公論	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹沢尚一郎	4. 巻 -
2. 論文標題 From Agribusiness to Food Democracy: Comparative Study on Agricultural Policy and Organic Farming in France and in Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 the Fondation France-Japon of EHESS	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 尾上選哉	4. 巻 -
2. 論文標題 英国チャリティにおけるチャリティ法人制度	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 非営利法人研究会公益/一般法人研究会 2017年度最終報告書『公益・一般法人制度の研究-日・英・米の制度の比較研究-』	6. 最初と最後の頁 41-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 尾上選哉	4. 巻 13
2. 論文標題 英国チャリティにおけるチャリティ法人制度の検討	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『研究年報』(大原大学院大学)	6. 最初と最後の頁 69-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 出口正之, 早川真悠, 大貫一	4. 巻 161
2. 論文標題 知的興奮を惹起するトランスフォーマティブ研究	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 民博通信	6. 最初と最後の頁 12-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Cordery, Carolyn, and Masayuki Deguchi	4. 巻 Published online: 06 Oct 2017
2. 論文標題 Charity registration and reporting: a cross-jurisdictional and theoretical analysis of regulatory impact	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Public Management Review	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/14719037.2017.1383717	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 出口正之	4. 巻 19
2. 論文標題 法人形態から見た「チャリティ・公益法人制度」の国際比較: 非営利の法人制度と会計を巡っての政策人類学的比較研究.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 非営利法人研究学会誌	6. 最初と最後の頁 31-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Eliya Onoe	4. 巻 12号
2. 論文標題 Annual Filing System of PICs in Japan: Preliminary Study for International Comparison of Annual Filing System of Charities	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 研究年報(大原大学院大学)	6. 最初と最後の頁 141-148
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 出口正之	4. 巻 1009
2. 論文標題 台湾の財団法と日本への教訓	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 公益・一般法人	6. 最初と最後の頁 66-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 出口正之	4. 巻 1005
2. 論文標題 公益法人制度に対する世間の誤解	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 公益・一般法人	6. 最初と最後の頁 18-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 尾上選哉	4. 巻 22
2. 論文標題 会計からみる公益法人制度改革の課題と可能性	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 非営利法人研究学会誌	6. 最初と最後の頁 15-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計25件 (うち招待講演 7件 / うち国際学会 9件)

1. 発表者名 Masayuki Deguchi
2. 発表標題 "Businesscentrism" and NPO Accounting from Theoretical Standpoint
3. 学会等名 The 15th International Society for Third Sector Research (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 出口正之
2. 発表標題 公益法人をめぐるサードセクター論とビジネスセントリズム/ガバメントセントリズム
3. 学会等名 非営利法人研究学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Masayuki Deguchi
2. 発表標題 Rubin's vase: the theory of tax deduction for donation and realities
3. 学会等名 The 14th International Society for Third Sector Research (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Onoe Eliya
2. 発表標題 Development of Disclosure System of Financial Reporting in Japan's PBOs,
3. 学会等名 The 14th International Society for Third Sector Research (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 出口正之
2. 発表標題 中国・台湾・日本の公益法人をめぐる制度改革
3. 学会等名 国立民族学博物館国際シンポジウム「東アジアの非営利組織をめぐる法・会計・文化 普遍性と個別性」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 尾上選哉
2. 発表標題 企業会計の「特殊性」と「普遍性」
3. 学会等名 国立民族学博物館国際シンポジウム「東アジアの非営利組織をめぐる法・会計・文化 普遍性と個別性」(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 久保秀雄・出口正之
2. 発表標題 公益法人の財務三基準のシステム論的理解
3. 学会等名 非営利法人研究学会全国大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 出口正之
2. 発表標題 相違説に基づく非営利会計の本質と国際標準化
3. 学会等名 非営利法人研究学会全国大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Carolyn Cordery, Jeff Mechanics, Masayuki Deguchi
2. 発表標題 Introducing International Financial Reporting for Non-Profit Organisations (IFR4NPO)
3. 学会等名 International Society for Third Sector Research, Webinar (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Masayuki Deguchi
2. 発表標題 Applying for a government grant as ritual process?: Anthropological perspective on Japan's "sleeping account funds"
3. 学会等名 AJJ(Anthropology of Japan in Japan) Spring Workshop (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Masayuki Deguchi
2. 発表標題 Shifting Sands of dormant accounts policy for public interest activities in Japan: global trend and Japanese culture
3. 学会等名 The 11th International Society for Third Sector Research, Asia Pacific Regional Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 出口正之
2. 発表標題 税制優遇のルビンの壺：価値的多様性と手段的多様性の奨励
3. 学会等名 非営利法人研究学会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 出口正之
2. 発表標題 アウトサイダーから見た論理矛盾
3. 学会等名 会計制度・政策研究会臨時研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 尾上選哉
2. 発表標題 会計からみる公益法人制度改革の課題と可能性
3. 学会等名 非営利法人研究学会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Deguchi, Masayuki
2. 発表標題 The Comparative Qualitative Data Studies from the Statutory Inquires in the UK and the Statutory Kankoku in Japan
3. 学会等名 13rd International Society for Third Sector Research (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 出口正之
2. 発表標題 公益法人税制改革における政府税制調査会の役割
3. 学会等名 非営利法人研究学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Masayuki Deguchi
2. 発表標題 Japanese strictness and costs of the filing: Views from the comparative studies between Public Interest Corporations in Japan and Charities in New Zealand.
3. 学会等名 Asia Pacific Regional Conference of the International Society for Third Sector Research (ISTR) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 出口正之
2. 発表標題 公益認定における収支相償に係る諸問題
3. 学会等名 非営利法人研究学会 (招待講演)
4. 発表年 2017年



1. 発表者名 出口正之
2. 発表標題 番場資金収支会計基準とNPO法人会計基準
3. 学会等名 非営利法人研究学会NPO法人部会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大貫一、早川真悠、出口正之
2. 発表標題 ジンバブエの会計現象のトランスフォーマティブ研究 超インフレ状況下におけるジンバブエの経済現象に関する試論
3. 学会等名 日本会計研究学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 出口正之
2. 発表標題 公益認定法における民間公益の一般原則とは何か
3. 学会等名 日本公益学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藤井秀樹, 今枝千樹
2. 発表標題 地域資源開発のフロンティアと民間非営利活動の役割 広島神楽・東農地歌舞伎における中間支援活動の事例研究
3. 学会等名 日本地域資源開発経営学会第6回全国大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 今枝千樹, 藤井秀樹
2. 発表標題 地域創生の起爆剤となりうる文化芸術活動に対する持続可能な支援のあり方 広島神楽・東農地歌舞伎のケーススタディ -
3. 学会等名 非営利法人研究学会第21回全国大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Eliya Onoe
2. 発表標題 Annual Filing System of PICs in Japan: Preliminary Study for International Comparison of Annual Filing System of Charities
3. 学会等名 Asia Pacific Regional Conference of the International Society for Third-Sector Research (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 尾上選哉
2. 発表標題 企業会計の「特殊性」と「普遍性」
3. 学会等名 国立民族学博物館館長リーダーシップ国際シンポジウム(招待講演)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 尾上選哉	4. 発行年 2022年
2. 出版社 中央経済社	5. 総ページ数 340
3. 書名 非営利法人の税務論点	

1. 著者名 出口正之・藤井秀樹編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 清水弘文堂書房	5. 総ページ数 335
3. 書名 『会計学と人類学のトランスフォーマティブ研究』清水弘文堂書房	

1. 著者名 宇田川妙子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ドメス出版	5. 総ページ数 292
3. 書名 「『地中海料理』というイメージ：国民料理を補助線として」、西澤治彦編 『「国民料理」の形成』88 - 108頁	

1. 著者名 出口正之	4. 発行年 2018年
2. 出版社 全国公益法人協会	5. 総ページ数 312
3. 書名 公益認定の判断基準と実務	

1. 著者名 Masayuki Deguchi :Ogawa, Akihiro ( 編者 ) :Apichai W. Shipper:Ruth Phillip他	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 552
3. 書名 Routledge Handbook of Civil Society in Asia	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	尾上 選哉  (Onoe Eliya)  (00341199)	日本大学・経済学部・教授    (32665)	
研究分担者	竹沢 尚一郎  (Takezawa Shoichiro)  (10183063)	国立民族学博物館・その他部局等・名誉教授    (64401)	
研究分担者	藤井 秀樹  (Fujii Hideki)  (80173392)	金沢学院大学・経済学部・教授    (14301)	
研究分担者	宇田川 妙子  (Udagawa Taeko)  (90211771)	国立民族学博物館・超域フィールド科学研究部・教授    (64401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関